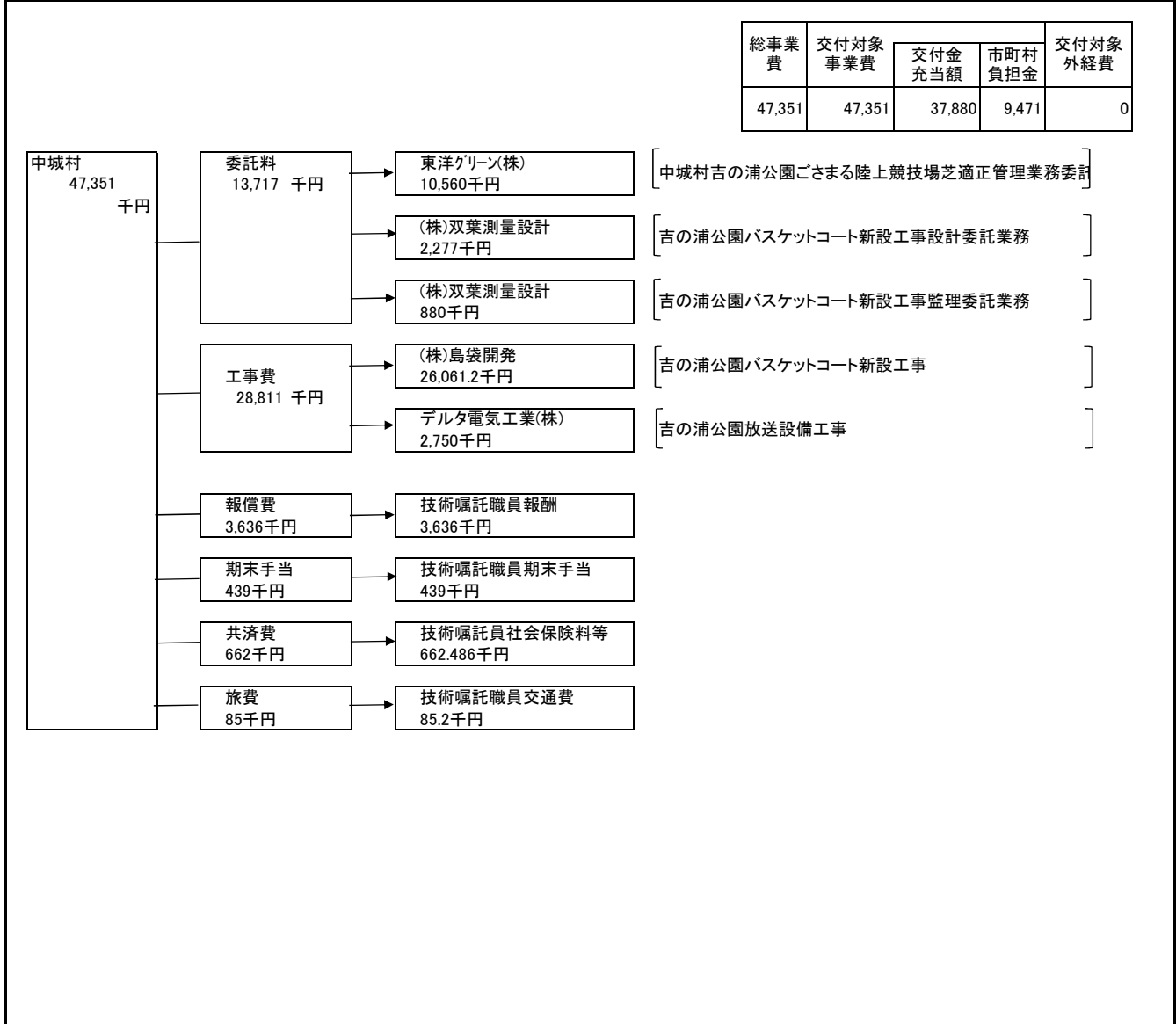


市町村名		中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	吉の浦公園等施設機能強化整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
事業内容	地域振興及び観光誘客を図るため、健康づくりや文化振興の拠点として吉の浦公園等施設の整備を実施する。また、プロサッカーチームの合宿誘致を図るため、陸上競技場の芝生の適正管理等を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R5年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R1年度	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R4年度	
		(a)当初予算額	135,321	175,327	0	44,434	46,398
	(b)予算現額	107,341	149,536	0	36,000	48,188	
	(c)増減額(b-a)	▲27,980	▲25,791	0	▲8,434	1,790	
	(d)繰越額	0		45,001	0	0	
	A.計(b+d)	107,341	149,536	45,001	36,000	48,188	
	B.執行済額	107,341	104,535	25,729	33,226	47,351	
	うち交付金充当額	85,873	83,628	20,583	26,581	37,880	
	次年度繰越額	0	45,001	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	69.9%	57.2%	92.3%	98.3%	
予算の状況の説明		バスケットコート新設工事において予算に補正が生じたが、執行に関しては適正に実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	ごさまる陸上競技場芝生の適正管理		目標 ( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
	実績		実施	実施	実施	実施	
・吉の浦公園バスケットコート整備の実施 ・吉の浦公園放送設備整備の実施		目標 ( )	( )	( )	( 実施 )		
実績					実施		
達成状況説明	・陸上競技場芝生適正管理業務に関して、継続した管理を実施することで一年を通じた快適な使用ができており、プロサッカーキャンプ地として利用した。 また、バスケットコートを新設しスポーツ振興の拠点として利用目的を増やすとともに、放送設備を新設することで公園内広域へのアナウンスが可能となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(5年度)
	プロサッカーチームの合宿件数		目標 ( 2チーム )	( 2チーム )	( 2チーム )	( 2チーム )	( 2チーム )
	実績			2チーム	2チーム	1チーム	
	・吉の浦公園バスケットコート整備の完了 ・吉の浦公園放送設備整備の完了		目標 ( )	( )	( )	( 実施完了 )	( )
	実績					実施完了	
	【参考指標】 R5年間利用者数 6,000名		目標 ( )	( )	( )	( )	( 6,000名 )
実績							
【参考指標】 放送設備の整備により利用者の利便性が向上したか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について施設利用者のアンケートで検証する。		目標 ( )	( )	( )	( )	( 80%以上 )	
実績							
進捗状況説明	適正な芝管理を継続してきたことでプロサッカーチームのキャンプ受入を実施し観光誘客を促進することができた。受入れチーム数に関しては、目標である2チームに対して1チームのみの受入となったが、県内の他施設との兼ね合いにより、例年であればキャンプ期間中に入れ替わりで2チームの利用があったものが、期間いっぱい1チームが利用していたため、実績は1チームに留まった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(プロサッカーキャンプ受入) 良質な状態の芝を維持できているため、プロサッカーチーム受入が実施できている。芝管理は専門性が高く、継続して管理委託を行っていかなければならない。	(プロサッカーキャンプ受入) 持続的に良質な芝管理ができるよう専門的知識及び技術を有する事業者にも今後も継続して管理してもらう必要がある。
	(バスケットコート新設・放送設備工事) 施設の機能強化が図られたことから、利用拡大に向けたPRが重要となる。	(バスケットコート新設・放送設備工事) 施設の機能強化が図られたことから、利用拡大に向けたPRが重要となる。
今後の取り組み方針		
(プロサッカーキャンプ受入) 良質な芝の適正管理を継続して実施し、関係機関と連携しながら受入体制の強化に取り組むことで、プロサッカーチームキャンプの定着化を図り観光誘客を促進する。		
(バスケットコート新設・放送設備工事) 施設機能強化による利便性向上について村HPや広報で周知するとともに、村体育協会やスポーツ推進協議会等の関係団体と連携し、各種大会での活用を促す等、利用拡大に取り組み、地域振興を図る。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



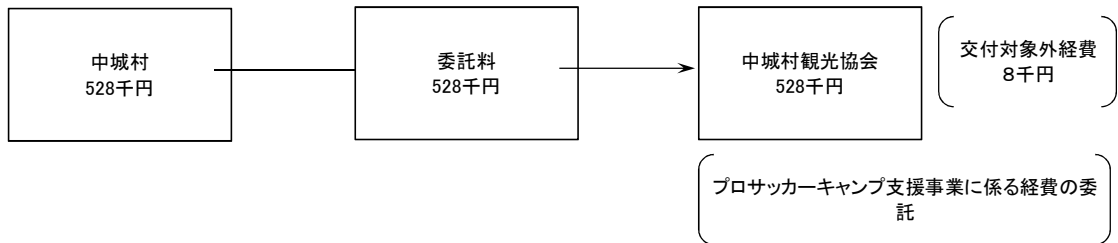
資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支出先の選定に関して、各工事及び設計委託については、指名競争入札により選定しており、適正な業者選定及び規模である。</li> <li>・入札残による不用額が発生したが、予定していた事業内容はすべて実施されたため、予算規模は適正であったと考える。</li> <li>・費目・使途については、精算時に目的に即しているかを確認し、必要であったと判断した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	プロサッカーキャンプ支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
事業内容	スポーツキャンプを通して、観光地としての魅力を発信し観光誘客を図るため、プロサッカーチームの冬季キャンプ誘致活動並びにキャンプ受入の歓迎イベントの開催、また円滑なキャンプ実施の為に警備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,484	1,710	1,720	2,106	2,169
			1,334	1,710	1,720	1,903	2,169
			▲ 150	0	0	▲ 203	0
			0	0	0	0	0
		1,334	1,710	1,720	1,903	2,169	
	B. 執行済額 うち交付金充当額		1,334	1,701	770	1,292	520
			1,067	1,360	600	1,034	415
		0	0	0	0		
		100.0%	99.5%	44.8%	67.9%	24.0%	
予算の状況の説明	令和4年度は2チーム誘致予定であったが1チーム誘致にとどまったため、執行率が24%と低くなっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	プロサッカーチームの誘致活動の実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	キャンプ支援の実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	・本村のサッカーキャンプに関する受入体制のPRやキャンプ期間中の支援など、プロサッカーチームの誘致活動を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	キャンプ見学者数	目標	(    )	( 8,960人 )	( 8,480人 )	( 8,640人 )	(    )
		実績		0人	0人	777人	
	【参考指標】	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	(    )
		実績					
進捗状況説明	・今年度も継続してプロサッカーチームを誘致することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止のため、ファンサービス等を一部実施することができず、目標達成をすることができなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新型コロナウイルス感染症の影響により、規模縮小の事業内容となったことが影響し、成果目標は達成できなかったが、継続して誘致活動やキャンプ支援事業を実施することができた。 新型コロナウイルス感染症が収束に向かっていくことから、誘客数の回復に向けた取り組みを行う必要がある。	キャンプ誘致に早期着手し2チーム以上誘致する。 チームとの連携を密にし、キャンプ日程の情報を周知し誘客へ繋げる。 チームが安心してキャンプを実施できる環境を提供し定着を図る。
<b>今後の取り組み方針</b>		
キャンプ見学と中城村の飲食や観光地に足を運ぶ企画等を検討し、誘客数の向上及び地域の消費拡大・活性化に繋げる。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
528	520	415	105	8



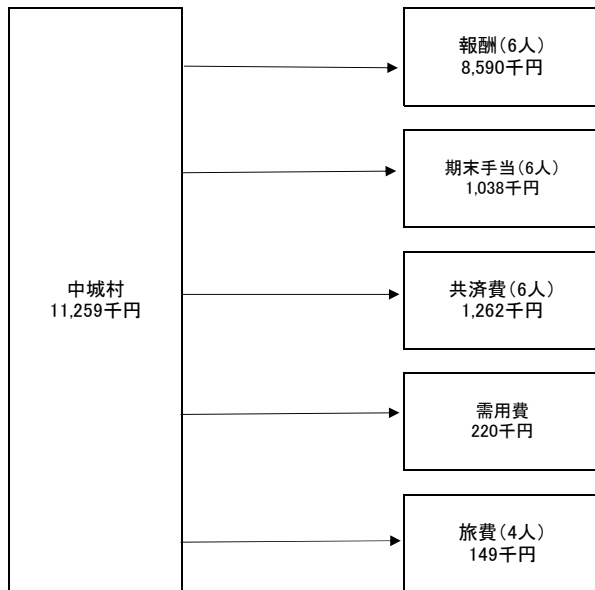
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託先は村観光振興に資する団体であることから、妥当であるとする。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、当初計画通り実施できなかったが達成状況を鑑みると妥当であるとする。 ・費用、使途においては、精算時に検査をしていることから必要なものに限定されているとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-④	観光地周辺環境美化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア		
担当部署名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成29～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進		
事業内容	観光地及び観光地へのアクセス道路の美化清掃を行い、観光客の満足度向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		20,360	21,727	21,836	23,192	11,280
			19,665	20,519	20,387	20,036	11,280
			▲ 695	▲ 1,208	▲ 1,449	▲ 3,156	0
	B. 執行済額		19,665	20,519	20,387	20,036	11,280
	うち交付金充当額		15,731	1,614	16,309	16,029	9,007
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.8%
	予算の状況の説明		適切に予算執行し、事業に関しても目的通り執行することができた。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	環境美化作業員 6名		目標 ( 6名 )	( 6名 )	( 6名 )	(      )	
			実績	6名	6名	6名	
	アクセス道路の美化清掃の実施		目標 (      )	(      )	(      )	( 実施 )	
			実績			実施	
達成状況説明	年度を通して美化活動を実施できた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	魅力的な観光地としての景観となっているか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標 (      )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(      )
			実績	89%	未実施	92%	
	【参考指標】		目標 (      )	(      )	(      )	(      )	(      )
			実績				
	進捗状況説明	作業員と作業工程や歩行者・観光者にとって不快な状況にある箇所を確認しながら作業を実施し、観光地としてふさわしい景観創出を維持できた。アンケートの結果、満足度向上が確認できた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>年間を通して、作業工程を見直しながら実施したが、夏場の草の伸びが早い時期や、悪天候により作業が行き届かず作業の遅れが生じることがあった。</p> <p>作業を実施しているハンタ道は、文化庁から保存と活用を広く国民に顕彰するために選定する「歴史の道百選」にも登録され、利用者が増加している。</p> <p>利用者から草刈の要望なども増加しており、作業が間に合っていない区間などもあることから、作業を効率的かつ迅速に行えるように計画し実施する必要がある。</p>	<p>季節による草の成長が早い時期の作業遅れや、悪天候により作業ができなかった場合には作業工程の見直しを適宜行い、草の成長が早い個所を先に行うなど効率的に実施する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>観光客が快適にアクセスできるよう、作業員と定期的な現場確認・状況把握及び共有を図り、状況に応じて作業工程の見直しを行い効率的な作業を継続する。</p> <p>また、観光地へのアクセス道路として村道2路線を加え、より魅力的な観光地形成を図るため、作業員3名を増員し作業を実施していく。</p> <p>作業箇所を増やすため、これまで以上に作業工程や現場状況の確認等、作業の遅れがないように引き続き実施していく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
11,259	11,259	9,007	2,252	0

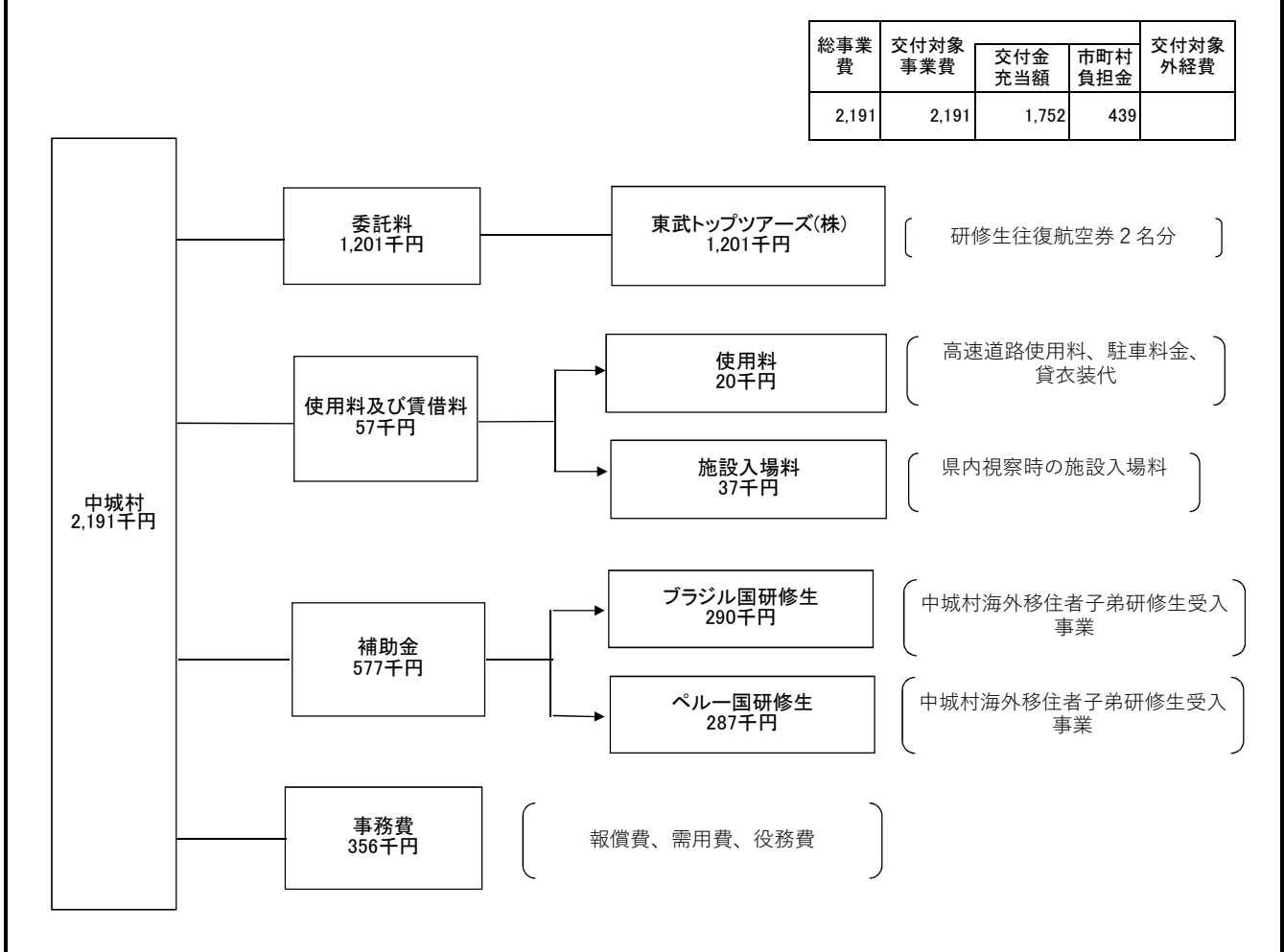


資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、必要なものに限定されていると判断した。</p> <p>○作業員の採用については村の条例規則に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。</p> <p>○成果目標もほぼ達成できたことから、予算規模は適正であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①	海外移住者子弟研修生受入事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(2)-(ア)		
担当部署名	企画課	事業実施(予定)年度	平成26～令和6年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展 Ⅲ-7		
事業内容	海外と本村を結ぶ懸け橋となる人材の育成を図るため、海外に移住した中城村出身の子弟を研修生として受入、日本語研修、文化研修、地域交流等の交流プログラムを実施する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,349				2,683	
			2,349				2,403	
			0				▲ 280	
			2,349				2,403	
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		1,670				2,191	
			1,336				1,752	
			71.1%				91.2%	
予算の状況の説明	当初予算では研修生3名分の予算を組んでいたが2名となった影響などから3月補正にて減額した。不用額は印刷製本費の減などである。							
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	中城村出身子弟の研修生受入		目標 (受入実施)	(受入実施)	(受入実施)	(3人)		
		実績	事業中止	事業中止	事業中止	2人		
達成状況説明	世界的な新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ対策をとり、中城村出身者の子弟を研修生として受入れることができた。住民にも国際交流の機会を提供し移住の歴史や海外のウチナー文化について興味を促すことができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	沖縄の文化や歴史により興味を持ったか(80%以上)を含め、子弟へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する		目標	( )	( )	( )	(80%)	( )
			実績				100%	
			目標	( )	( )	( )	( )	( )
			実績					
進捗状況説明	沖縄の文化や歴史について、語学研修、文化研修、琉球大学特別講義等を実施。研修生のニーズも踏まえ実施したことで研修内容に加え、住民等とのふれ合いからも多くの事を学び取り、満足度の向上を図ることができたため、目標を上回る結果となった。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)	
取組の検証	(受入研修生) ・従前より適正のある研修生を受け入れるためには、選考期間について余裕のあるスケジュールを組まなければならないが、新型コロナウイルス感染症の影響が各国でも様々であり、各国の意向や状況など十分な連携を取りつつ進める必要があった。また、入国制限の状況なども注視しつつ慎重に事業を実施した。	(受入研修生) ・早い段階で各国村人会に対し、各国の意向や状況把握のための連携をとるとともに、日本や各国、来沖時の経由国の入国制限状況などの情報を集める。	
	(国際交流場の提供) ・結果として2名を受け入れることができ、様々な交流をとおして、村民・研修生ともに、国際交流について理解・関心を深めるきっかけとなった。	(国際交流の場の提供) ・より深く国際交流について理解・関心を高めるため、研修生と村民の交流プログラムを強化する。	
<b>今後の取り組み方針</b>			
(受入研修生) ・継続的に研修生を受け入れられるよう、各国村人会との調整を密にし、また連携を深め事業の周知を図る。  (国際交流の場の提供) ・村民との交流を強化するためのプログラムについて検討する。			

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は地方自治法施行令第167条の2第1項第5号の規定に則り随意契約としており、妥当であったと考えている。 ○予算規模について、執行残が出たが、事業の目的は達成され、適正であった。 ○要綱の定めのある事業目的に即した費用を交付しており、要綱外の費用においては受益者負担の観点から、負担関係は妥当であるとする。 ○費目・使途については、額の確定時において支出等に関する書類により、確認し、適正であることを確認した。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

資金の流れ、費目・使途の点検評価



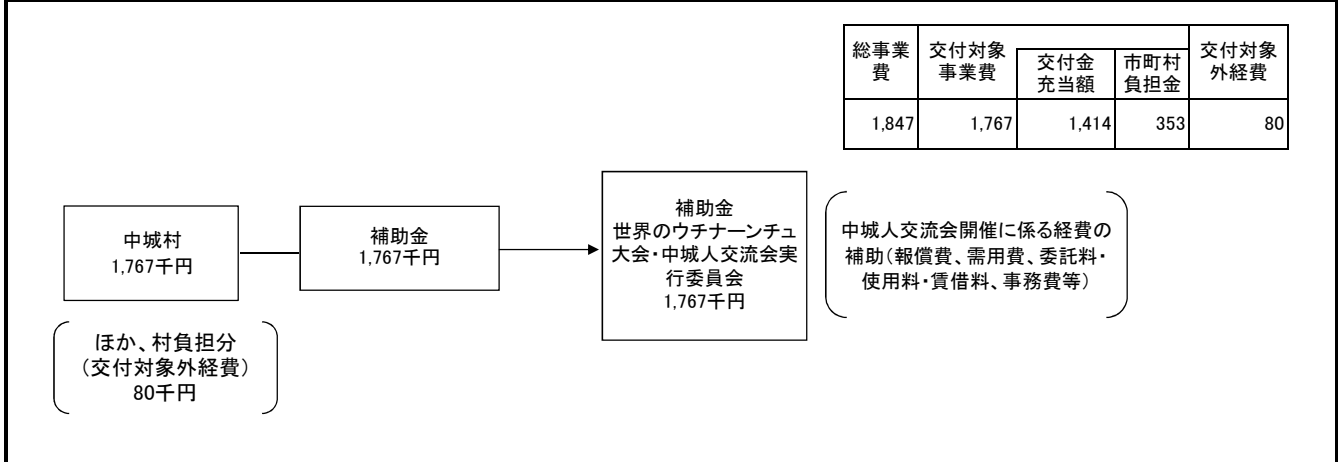
市町村名	中城村						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	3-②	世界のナカグスクンチュ交流事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(2)-(ア)			
担当部署名	企画課	事業実施(予定)年度	平成28~令和5年度	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展			
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-7			
事業内容	海外に移住した中城村出身者を招聘し、村民との国際親善交流に向け、世界のウチナーンチュ大会・中城人交流会実行委員会が開催する中城村をPRするための村内視察や交流会等の開催を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度					
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	3,000				
		(b) 予算現額	1,791				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,209				
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	1,791					
	B. 執行済額	1,767					
	うち交付金充当額	1,414					
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	98.7%					
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加人数が大幅に落ち込んだことや交流会が未開催となったこと等が影響し、予算を減額した。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度				
	・世界のウチナーンチュ大会・中城人交流会実行委員会への支援	目標	( 実施 )	(      )	(      )	(      )	
		実績	実施				
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
		実績					
達成状況説明	世界のウチナーンチュ大会・中城人交流会実行委員会へ補助金を交付し、実施を支援した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度		目標値(年度)	
	・中城村PR視察の実施	目標	(      )	( 実施 )	(      )	(      )	(      )
		実績		実施			
	・中城人交流会の開催	目標	(      )	( 開催 )	(      )	(      )	(      )
		実績		中止			
	交流会への参加者数:270人	目標	(      )	( 270人 )	(      )	(      )	(      )
		実績		中止			
	進捗状況説明	・中城村PR視察では護佐丸歴史資料図書館や中城城跡などを視察し、海外移住者等の方々は自己のルーツの再認識に繋がるとともに、村民にとっては故郷の歴史や移民史に触れることができ、中城村と各国の絆を再認識し、ウチナーネットワークの構築に繋がった。 ・新型コロナウイルス感染症の影響から交流会は中止せざるを得なかった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>今年度は当初の参加申し込み人数が24名と例年より大幅に少なく、また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から交流会を開催しなかったが、交流会の開催を希望する声が多く挙がった。</p> <p>ウチナーンチュ大会は5年に1度の開催であり、この交流会で親戚や友人に会えることを心待ちにしている参加者も多くいたため、村民と海外に住むナカグスクンチュが交流できる場所の提供は必要だと考える。</p> <p>村内ツアー参加者は高齢の方も多く、中には車イスでの参加者もいたため、天候が悪い中での中城城跡の見学は危険だと感じる箇所が多々あった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の「世界のウチナーンチュ大会」開催時に合わせて、次回交流会の実施を検討する。</li> <li>・村内ツアーのコース内容や雨天時の対応について検討する。</li> <li>・中城人交流会開催前の中城村出身の移住者等への周知体制の強化を図る。</li> <li>・参加者の負担軽減を図りつつ、参加者の意見を反映させたより魅力あるイベントの在り方を検討する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・中城人交流会は、平成2(1990)年の「第1回世界のウチナーンチュ大会」と同時に開催し、その後も本大会に際し約5年に1度開催している。次回大会においても継続して実施を検討する。
- ・周知については、海外村人会等団体との連携を強化するとともに、HPやSNSでの発信を検討する。
- ・事前の参加者人数の把握については、特設サイトを設置し、サイトからの申込みで一括管理できないか検討する。
- ・参加者の負担軽減を図り、より魅力ある交流会にするため、開催時間やプログラム内容の変更を検討する。
- ・人数規模に応じた会場と体調面に配慮した事業運営を検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



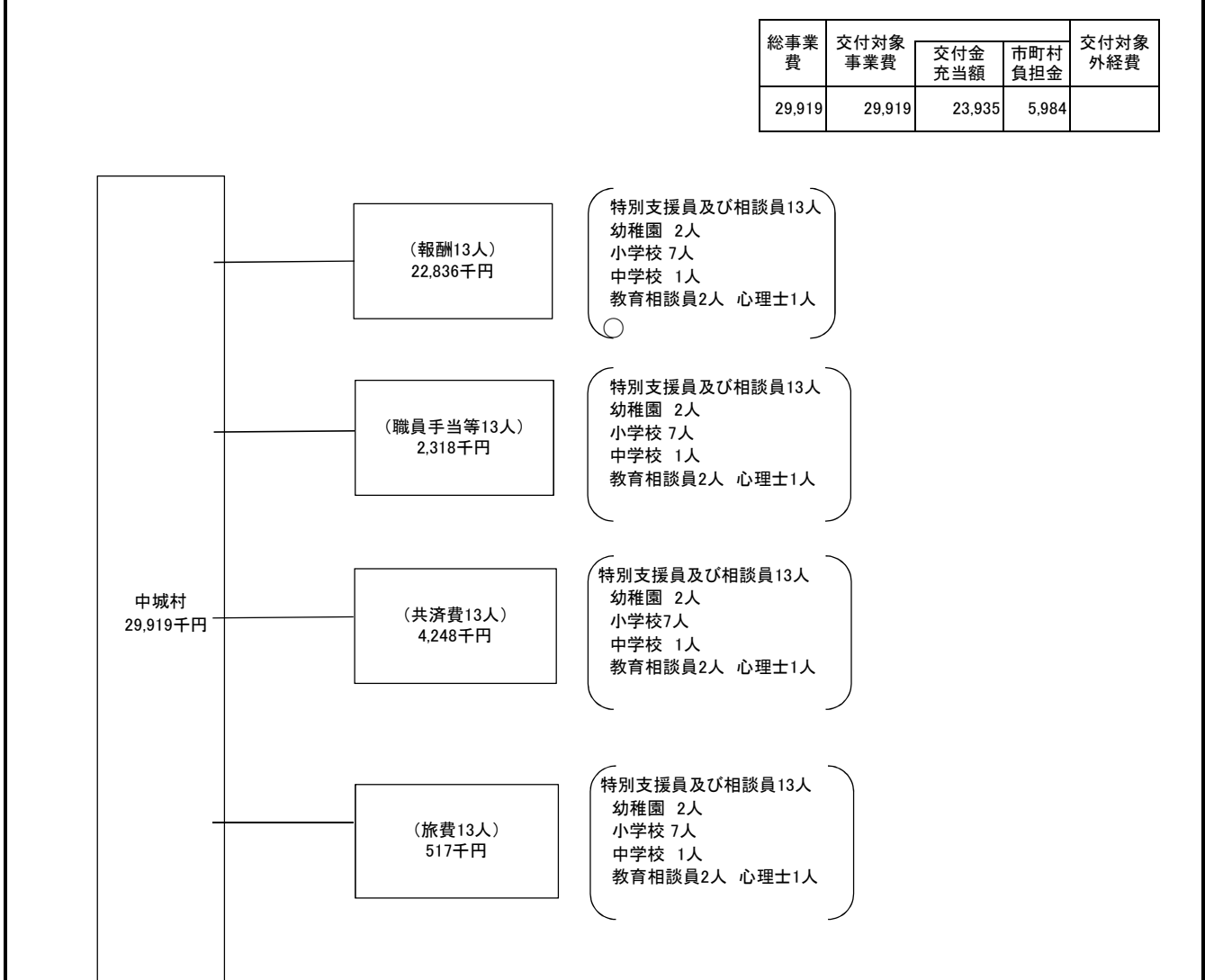
評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は地方自治法施行令第167条の2第1項の1の規定に則り随意契約とした。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定していた事業内容が一部中止となったが、新型コロナウイルス感染症の影響という不測の事態によるものであり、予算規模は適正であったと考える。
-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要性について額の確定・精算時において支出等に関する書類を確認し、適正であった。
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

資金の流れ、費目・用途の点検評価

市町村名		中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	きめ細かな児童生徒支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進	
事業内容	特別な支援を要する児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村内幼小中学校に特別支援員を配置し支援を行うとともに、不登校など課題のある児童生徒の改善を図るため、教育相談員と心理相談員を配置し支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	49,843	55,676	44,368	39,180	35,492
	(b) 予算現額	41,835	46,221	41,098	29,136	29,938	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 8,008	▲ 9,455	▲ 3,270	▲ 10,044	▲ 5,554	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	41,835	46,221	41,098	29,136	29,938	
	B. 執行済額	41,712	46,221	41,098	29,136	29,919	
	うち交付金充当額	33,369	39,976	32,878	23,308	23,935	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	99.7%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	
予算の状況の説明		支援員について、当初昨年度からの継続雇用を見込んでいたが、新規雇用(別の支援員)となったことに伴い、予算額に不用が生じたが、目的通り適切に執行された。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	特別支援員配置 10人 幼稚園 2人 小学校 7人 中学校 1人	目標	(幼稚園4人 小学校15人 中学校3人)	(幼稚園4人 小学校9人 中学校2人)	(幼稚園2人 小学校6人 中学校1人)	(幼稚園2人 小学校7人 中学校1人)	
		実績	(幼稚園5人 小学校14人 中学校3人)	(幼稚園4人 小学校9人 中学校1人)	(幼稚園2人 小学校6人 中学校1人)	(幼稚園2人 小学校7人 中学校1人)	
	相談員の配置 3人 教育相談員2人 心理相談員1人	目標	(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員2人 心理相談員1人)	
実績		(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員3人 心理相談員1人)	(教育相談員2人 心理相談員1人)		
達成状況説明	該当児童生徒が落ち着いて学校生活を送れるよう、支援員等を配置し個々にあったサポートを実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	特別支援員の対応への満足度(70%以上)を含め、保護者へのアンケートを本事業のあり方について検証する。	目標	( )	( 70% )	( 70% )	( 70% )	( )
		実績		84%	96%	95%	
	不登校児童生徒復帰率42%以上	目標	( )	( 49% )	( 46% )	( 42% )	( )
		実績		23%	44%	45%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートで95%の満足度を得られた。</li> <li>・継続して教育相談を実施し支援を行った結果、不登校児童生徒復帰率については小学校において大幅に復帰率が向上した。不登校児童生徒復帰率は、目標を達成することが出来た。</li> <li>・スクールカウンセラーや養護教諭、担任と連携を図り、さらに関係機関とも連携することで家庭への支援の充実が図られた。</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(特別支援員アンケート) 支援員のサポートにより学習に取り組めるようになるなどの効果があった。今後も特別支援員の研修を通して、支援の質を高める取り組みを行っていく。</p> <p>(不登校児童生徒復帰率) 継続して教育相談や心理相談を行った結果、目標の不登校復帰率を超えることが出来た。不登校復帰率は向上したが、不登校児童人数は増えている現状があるため、教育相談や心理相談を通じて学校・保護者・関係機関が常に連携して支援を行っていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんかんの発作が頻繁に起こるような児童生徒について、情報を共有し学校全体での安全確保体制の確認を行う。</li> <li>・教育相談には時間がかかり、担任とのフィードバックの時間が時間的ゆとりがないため、学校内での調整時間の確保が出来るよう体制を構築していく。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<p>今後も、支援が必要な児童生徒が学校教育を当たり前享受できるよう、以下の取り組みを行っていく。</p> <p>①「主体的・対話的な学び」の推進を図り、個別最適な学びを提供するため、支援員の研修を実施するなど支援の質の向上を図る。</p> <p>②児童の面談だけでなく、保護者に授業参観をしてもらうことで児童生徒の様子を的確にとらえ、情報共有と今後の支援方法について確認を行っていく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



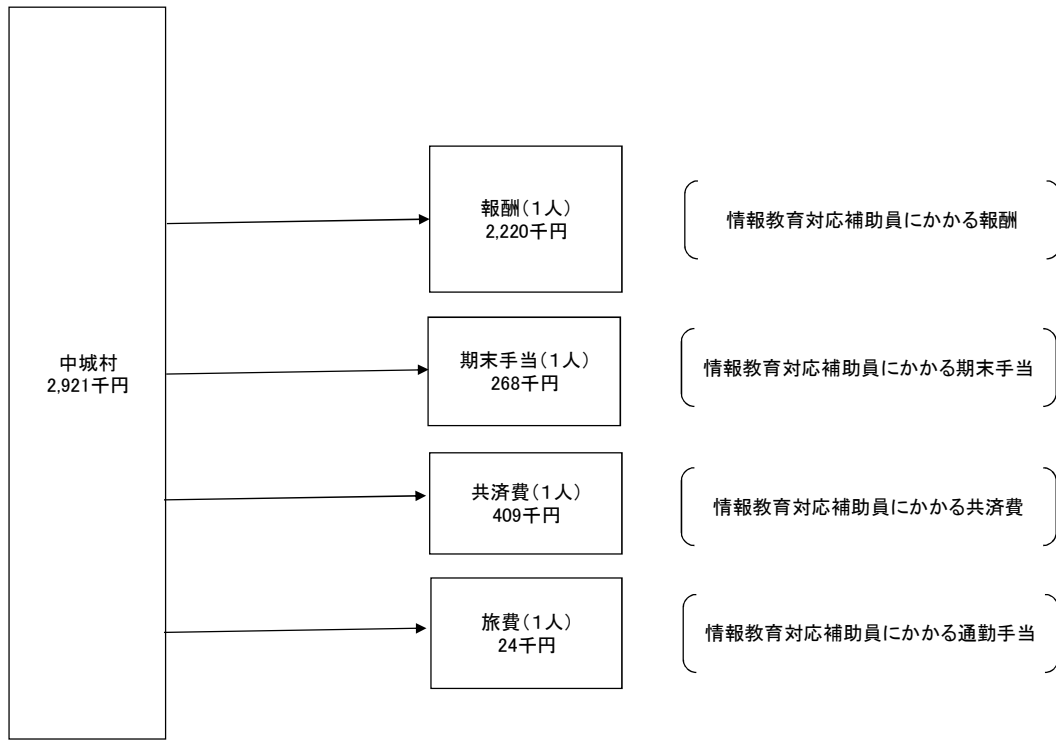
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・支援員の採用については、村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。</p> <p>予定していた事業規模はほぼ実施できたので予算規模は適正であったと考えている。</p> <p>・費目、使途については、目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。</p>
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ		
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	ICTを使用したわかりやすい授業を実施することによる学校教育の質の確保及び教員のICT機器活用の習熟を図るため、情報教育補助員を配置し、授業支援やICT機器活用に向けた環境整備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,056	21,520	50,220	41,297	2,861
			2,081	20,429	34,589	58,897	2,861
			25	▲ 1,091	▲ 15,631	17,600	0
			2,081	20,429	34,589	58,897	2,861
	B. 執行済額 うち交付金充当額		2,081	20,429	34,589	58,352	2,921
			1,644	16,343	27,671	46,681	2,336
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%	102.1%	
	予算の状況の説明	適切に予算執行し、目的通り執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	ICT機器を使用した授業支援	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
		実績					
達成状況説明	情報教育補助員を1名配置し、村立小中学校4校の巡回訪問を行うことで、授業支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合	目標	(      )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(      )
		実績		81%	95.5%	95.1%	
	教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合:80%以上	目標	(      )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(      )
		実績		84%	99%	98.8%	
進捗状況説明	目標値80%以上に対して、実績値は95.1%と高い水準にある。ICTを活用した教育支援は、児童生徒にわかりやすい授業を展開することに繋がり、教員においても習熟度が向上していることから、支援内容を充実させ効果的な活用を行う。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人一台端末を活用した授業が展開され、急速に進むICT教育環境に遅れることなく、授業支援を行う必要がある。</li> <li>・ICT教育の好事例等を集約し、活用事例として教員への紹介・周知を行うなど支援内容を充実させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種教育アプリや電子黒板等の利活用を高め、授業内容を充実させる必要がある。</li> <li>・ICT教育について、活用方法が教員によって様々であることから、一定の目標値を設定し、各学年や学校間の連携等を図れるようにする必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教育の充実を図るため、長期的な教育環境に繋がるよう目標設定を明確にし、支援を行う。</li> <li>・学校間の連携を促し、ICT活用が不慣れな教員に対しても活用できる環境を整備し、充実した教育環境を構築させる。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,921	2,921	2,336	585	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT支援員の採用については村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。</li> <li>○ 予定通り事業を実施できたことから、予算規模は適正であったと考える。</li> <li>○ 費目・用途については、目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村
------	-----

**令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	4-③	学力向上のための学習支援事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける学校教育の充実
				Ⅲ-3-(1)

**事業内容**  
 村内中学校に学習支援員を配置し、数学を中心とした学習支援を実施することで、学力の向上を図る。

**効果発現年度**  
 当年度     後年度(    年度)

**実施方法**  
 直接実施     委託     補助     負担     その他(    )

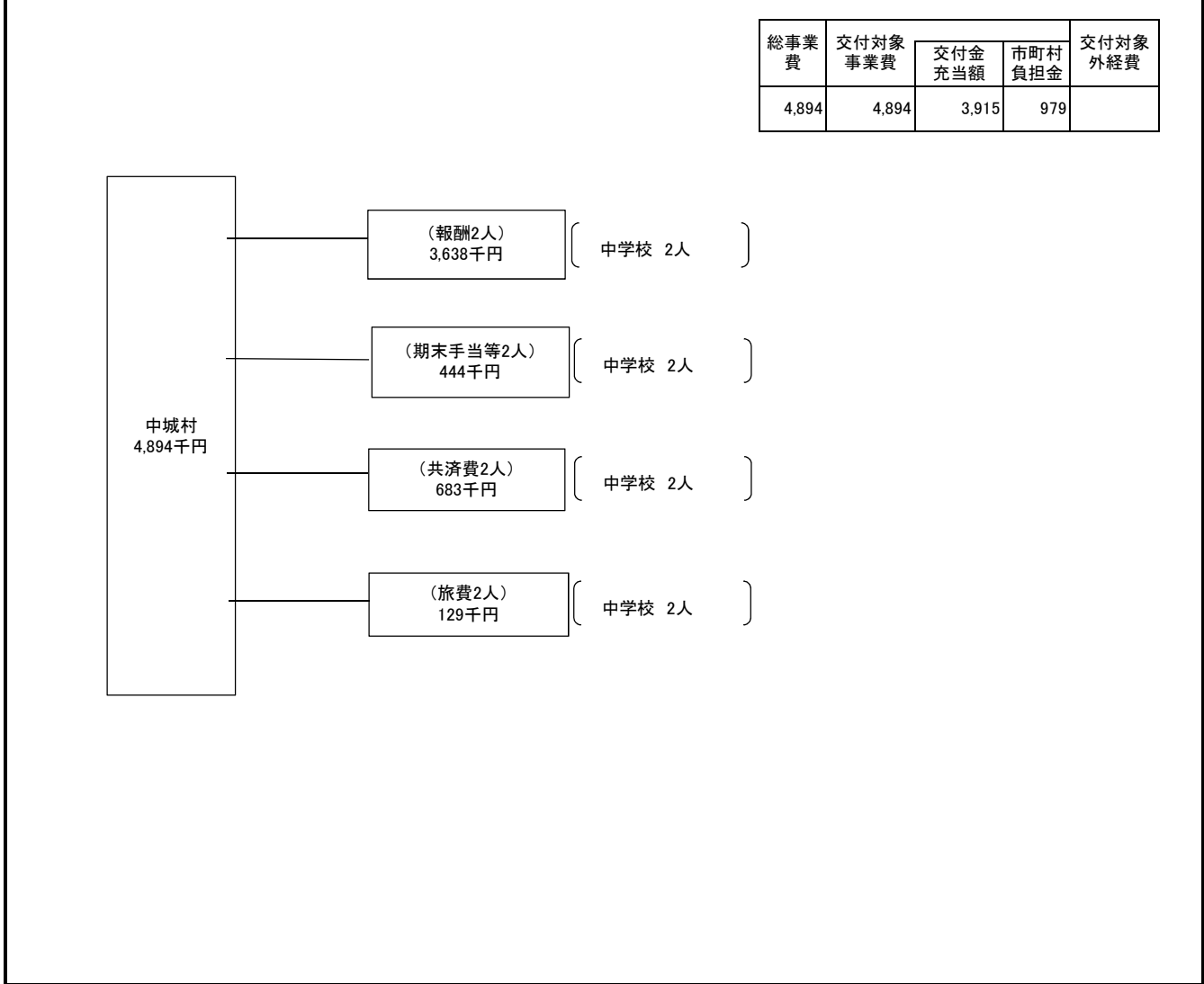
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	6,225	6,297	7,524	6,062	5,734
	(b) 予算現額	6,225	6,292	7,524	4,763	5,734
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 5	0	▲ 1,299	0
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	6,225	6,292	7,524	4,763	5,734
	B. 執行済額	6,218	6,292	7,524	4,763	4,894
	うち交付金充当額	4,974	5,033	6,019	3,810	3,915
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	85.4%
予算の状況の説明	当初予算どおり適切に執行できた。					

活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況			
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	学習支援員配置 中学校2人	目標 ( 中学校3名 )	( 中学校3名 )	( 中学校2名 )	( 中学校2名 )
	実績	中学校3名	中学校3名	中学校2名	中学校2名
	目標 (            )	(            )	(            )	(            )	
	実績				
達成状況説明	学習に課題を持つ生徒に対して、学習支援員2人を配置することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
		県学力到達度調査(数学)において、県と本村との平均正答率の差-5.6ポイント以上)	目標 ( 差-4.5P以上 )	( 差-5.4P以上 )	( 差-5.8P以上 )	( 差-5.6P以上 )
		実績	差-4.8P	差-1.7P	差-0.7P	
		目標 (            )	(            )	(            )	(            )	(            )
	実績					
進捗状況説明	平均正答率の差が大幅に縮まり目標を達成することができた。教科担任との連携を図り、具体的な手だての仕方を共有することで支援の質の向上に取り組み、学力の底上げに繋がった。また、個々の生徒課題を基に他教科も含む学習支援、放課後の補習を行い、教科担任と学習の様子を情報共有し、生徒に合わせた学習支援を実施することが出来た。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	関係職員で各種学習状況調査等の分析を行い、それらの分析結果を基に、組織的な指導・支援を行った。個々の学習状況を把握し、生徒の変容を確認しながら教科担任と連携し、生徒の学力状況に応じた問題の作成や学習支援を行った。また、外部検定の受検を促し生徒の意欲向上に努め、放課後には補習活動を実施した。	県到達度調査において、平均正答率が県平均を超えている学年があり、超えていない学年についても県との差が大幅に縮まっている。生徒の学習状況の実態を把握及び課題の改善に向けて、個々に応じた学習支援の充実に努める。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>昨年度から支援の継続を図り、以下の事に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係職員で各学習状況調査の分析を継続して行い、それらの分析結果を基に、組織的な指導・支援をおこなう。</li> <li>・個々の学習状況を把握し、常に生徒の変容を確認し支援の充実に取り組む。</li> <li>・検定等の受検を促し、目標を設定することで学習意欲の向上に取り組む。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



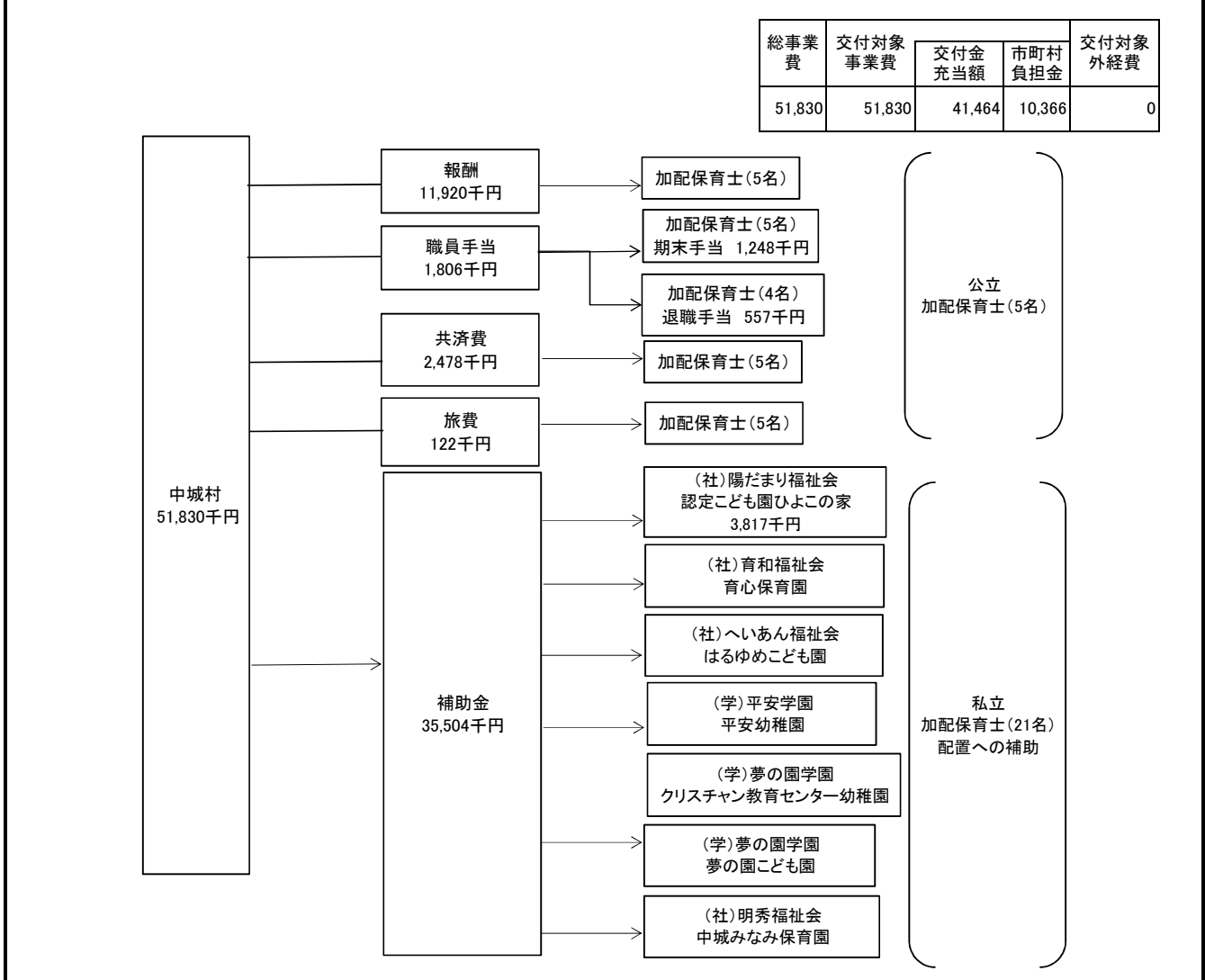
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の採用については村の会計年度任用職員の任用、勤務条件に関する条例に基づき雇用契約を行っている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定していた事業内容はすべて実施されたことから予算規模は適正であったと考える。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業の目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	子育て保育支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-ア	
担当部署名	こども課	事業実施(予定)年度	平成29～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	誰もが安心して子育てができる環境づくり Ⅲ-3-(1)	
事業内容	心身に障がいのある児童又は、発達に遅れのある特別な支援が必要な児童を保育所等で受入れるために、保育士加配に対する支援を行い、一般の児童と共に集団保育を行う体制を構築する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		36,683	36,935	47,061	43,935	52,241	
		29,299	34,071	34,801	44,066	52,241	
		▲ 7,384	▲ 2,864	▲ 12,260	131	0	
		—	—	—	—	—	
		29,299	34,071	34,801	44,066	52,241	
		29,299	34,071	34,801	44,066	51,830	
		23,439	27,256	27,841	35,253	41,464	
		0	0	0	0	0	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	
予算の状況の説明	当初の目的通り適正に執行できた。不用額は、補助上限額以下で交付決定された保育園があったため。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・加配職員数24名	目標	(加配職員数18名)	(加配職員数22名)	(加配職員数21名)	(加配職員数24名)	
		実績	加配職員数17名	加配職員数18名	加配職員数22名	加配職員数26名	
		目標	(    )	(    )	(    )	(    )	
実績							
達成状況説明	当初は24名の加配保育士を予定していたが、対象児の状況に合わせて加配保育士を配置した結果、目標より2名多く加配保育士を配置し、対象児が安心して保育園での生活を送れるよう支援を実施することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	保育園での生活の困難が改善されたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	(    )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	(    )
		実績		88%	90%	95%	
	【参考指標】	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	(    )
実績							
進捗状況説明	対象児の保護者アンケートの結果95%が「良かった」と回答しており、加配保育士を配置し、手厚く支援することは効果的であった。また、加配保育士と情報交換会を実施する予定であったが、コロナ禍の影響で実施できず、心理士の個別訪問により助言・指導を行い加配保育への理解を図った。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(保護者へのアンケート) ・加配保育について、目標を上回る結果を得ることができた。加配保育士が対象児をサポートすることで、保護者の不安の軽減につながったのが要因であると考える。 ・様々な障害を持つ児童が年々増加していることや、施設によって加配保育の経験がない保育士がいる為、加配保育の内容に差がある。	加配保育士向けの研修や保護者からの意見を共有できるよう定期的に情報交換会の実施を行い、加配保育全体の質の底上げを図る必要がある。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、加配対象児童を受け入れるために、継続して施設への支援を実施する。</li> <li>個別ケースにおける対応方法等の情報共有を行い、施設毎に保育内容に大きな差異が生じないように取り組み、質向上を図る。</li> <li>保護者が安心して子どもを預けられるよう、利用しやすい環境の構築に向けた取り組みを行う。</li> </ul>		

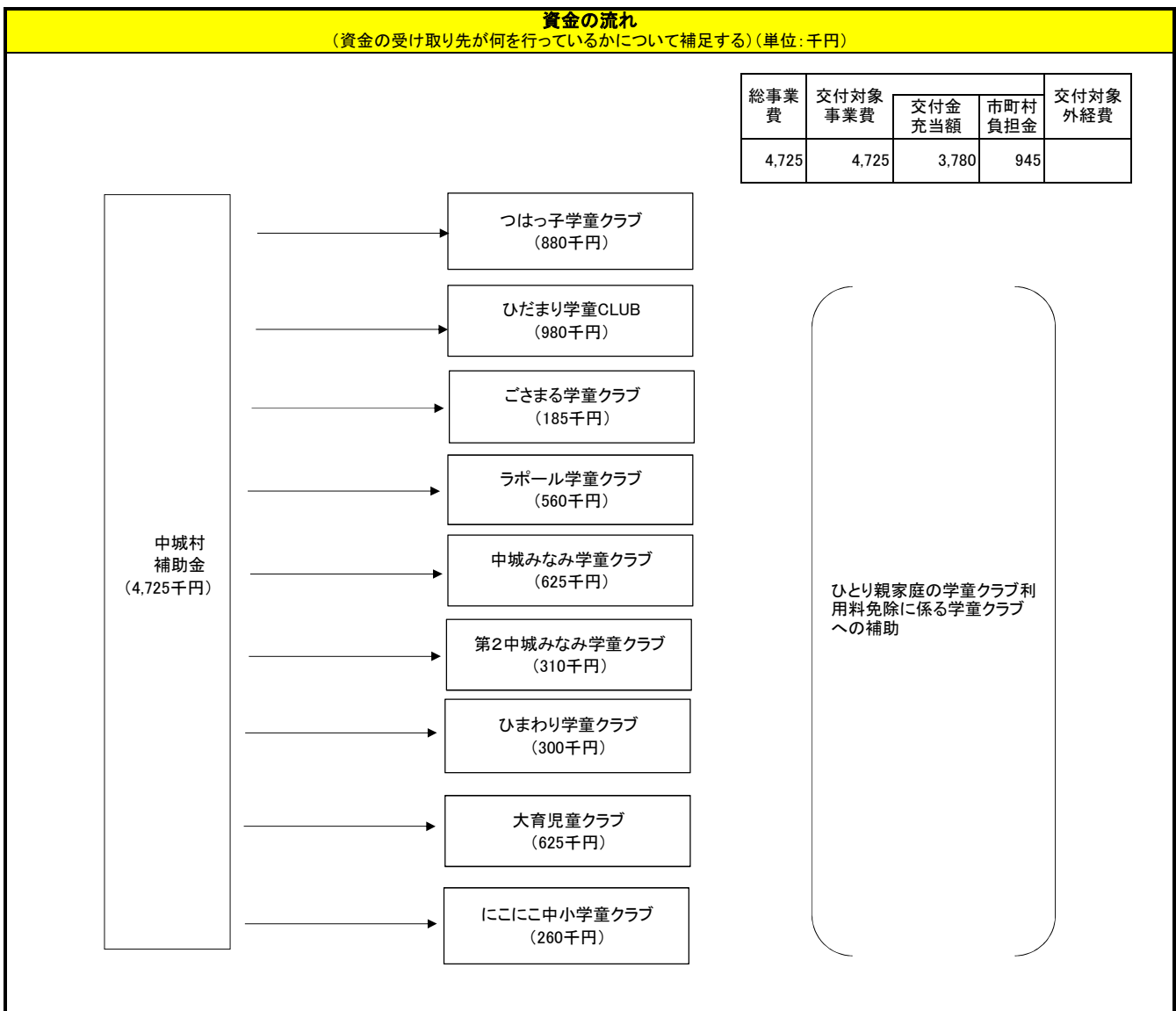
**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業者は支援が必要な子の受け入れが可能な施設であるため、妥当であると考えている。</li> <li>事業者負担もあり、事業内容から鑑みて妥当であったと考える。</li> <li>費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名	中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑤	ひとり親家庭学童利用支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-ウ	
担当部署名	こども課	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	ひとり親家庭等の困難を抱える保護者への支援		
事業内容	ひとり親家庭の学童利用に係る負担の軽減を図り、ひとり親家庭でも安心して子育てができる環境を整備するため、学童クラブが、ひとり親家庭の学童利用者に対し利用料を減免した場合に補助を行う。						
効果発現年度	■当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	(b)予算現額	4,418	4,815	5,015	5,300	4,860	
	(c)増減額(b-a)	1,418	▲1,185	▲985	▲700	▲1,140	
	(d)繰越額						
	A.計(b+d)	4,418	4,815	5,015	5,300	4,860	
	B.執行済額	4,418	4,730	4,905	4,855	4,725	
	うち交付金充当額	3,534	3,784	3,923	3,884	3,780	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	98.2%	97.8%	91.6%	97.2%	
予算の状況の説明	補助対象者が年度途中で退所したため減額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	ひとり親家庭への学童利用料を減免する学童利用クラブへの補助の実施		目標 ( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
			実績 実施	実施	実施	実施	
		目標 ( )	( )	( )	( )		
		実績					
達成状況説明	村内の9学童に対し、4,725千円の補助を行い、学童支援を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	安心・安全に子供を預ける事ができ、育児の負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、ひとり親家庭の保護者へのアンケートにより本事業を検証する。		目標 ( )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( )
			実績	100%	97%	100%	
	【参考指標】		目標 ( )	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	円滑に支援を実施してきたことで目標を達成し、ひとり親家庭の生活環境安定に寄与することができた。保護者へのアンケートでは学童クラブの利用について、全員(100%)が役立ったと回答があった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>保護者が減免を受けるまでの手続きを簡略化し、利用しやすい環境を作る事ができている。</p> <p>また、年度途中に支援を必要とする家庭もあるため、そのような対象者へ支援が行き届くよう学童クラブへ継続的に周知を行っていくとともに、他の学童へ転園する場合にも、継続して減免が受けられるよう学童保育連絡協議会との連携を強化していく。</p>	<p>対象者が支援を円滑に受けられるよう、HPや学童への入所申込時に継続的に周知活動を行うこと。また、学童保育連絡協議会を通じ、村内の他の学童クラブへ転園する場合も、助成が途切れることなく受けられるよう学童クラブと事務調整を行い、他学童クラブとの連携を強化して行く必要がある。</p>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>保護者へのアンケートの結果、本事業が安心した生活環境の確保のために役立ったと回答した割合が100%となり、利用者の全員が効果を実感している。役立った理由については、学童利用料の負担が減った71%、仕事を休まずに済んだ74%、お迎え等を理由に勤務時間の変更や転職をせずに済んだ51%等、安定した生活に寄与している。</p> <p>保護者の負担軽減を図り、安定的な生活が送れるよう引き続き支援していく。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、当該事業の要綱に規程している学童クラブであり妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、見込100人に対し延べ95人であるため、適正だったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である学童クラブに対する補助金は学童利用料のおおよそ1/2であること、また、保護者の減免額分を補助額として負担しているのが妥当だと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、清算段階で目的に即しているかを確認し、必要であったと判断した。

市町村名	中城村						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	5-①	歴史的資料整理公開活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	令和4~8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	米軍関係者が撮影した1万5千点近くに及ぶ沖縄の写真・映像等資料の整理を行う。中城村や沖縄の貴重な歴史を広く発信するため、これら資料を活用した展示会を開催し平和教育の促進を図る。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(R9年度)						
実施方法	■直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度				
	予算の状況	(a)当初予算額	12,545				
		(b)予算現額	12,663				
		(c)増減額(b-a)	118				
		(d)繰越額	0				
		A.計(b+d)	12,663				
	B.執行済額		11,679				
	うち交付金充当額		9,343				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		92.2%				
予算の状況の説明		不用額は入札残によるもの及び実績の減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度				
	資料リストの作成	目標	( 実施 )	( )	( )	( )	
		実績	実施				
	展示会の開催	目標	( 実施 )	( )	( )	( )	
		実績	実施				
達成状況説明	米軍関係者が撮影した1万5千点近くに及ぶ沖縄の写真・映像等資料を活用しリストを作成した。資料の一部を利用した展示会を開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度		目標値(年度)	
	資料リストの作成	目標	( )	( 実施 )	( )	( )	( )
		実績		実施			
	展示会の開催	目標	( )	( 来場者3,000人 )	( )	( )	( )
		実績		来場者4,111人			
	進捗状況説明	米軍関係者が撮影した1万5千点近くに及ぶ沖縄の写真・映像等資料(紙媒体、CD、DVD、フィルムなど)の分類、整理を行い、資料のリスト作成を行うことができた。また、これら資料の一部を利用した展示会を開催した結果、村内外から多くの来場者(4,111人)が見学に訪れた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>事業の実施に当たり、米軍関係者が撮影した1万5千点近くに及ぶ沖縄の写真・映像等資料は保存管理が状態が悪く劣化した資料が多かったことから、資料の適切な管理が行える状態にした後にリスト化を行いながら、一部デジタル化作業も行った。</p> <p>デジタル化をしなければ詳細情報を調査できない資料もあるため、デジタル化は必須である。</p>	<p>写真や映像等のオリジナルデータは劣化しているものが多い、劣化予防のため、デジタル化した資料から優先して情報収集調査や資料整理を実施していく必要がある。</p> <p>また、企画展を開催し、情報収集調査を行うこともできるが、準備に時間を要するため、資料整理や調査に影響がないようにする必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>令和9年度以降に整理した資料を企画展等にて公開できるよう、令和8年度まで資料整理や情報収集調査を中心に事業を実施していく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

中城村 11,747千円	報酬費	会計年度職員報酬(3名) 7,200千円	〔写真・映像等資料の整理及び展示会の開催〕	〔うち交付対象外経費 68千円〕
		共済費		
	期末手当	会計年度職員期末手当(3名) 870千円	〔会計年度職員の期末手当〕	
	旅費	会計年度職員通勤費(3名) 264千円	〔会計年度職員の通勤費〕	
	報償費	資料整理指導 108千円	〔資料整理指導〕	
	需用費	消耗品費 107千円	〔消耗品費〕	
		(株)東洋企画印刷 63千円	〔企画展用チラシの印刷〕	
	委託料 (1,210千円)	(株)Nansei	〔写真、動画フィルム等歴史資料のデジタル化〕	
	使用料及び賃借料 (200千円)	(株)オキジム 200千円	〔資料整理用ソフト使用料〕	
	備品購入 (414千円)	(株)オキジム 414千円	〔資料保存用全自動除湿庫購入〕	

資金の流 用途の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当と考えている。 ○不用額は事業費の6.3%程度であり、適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村				
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	5-②	文化財整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29年度～令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	村内の文化財を広く活用し村の歴史・文化の継承を図ることを目的に、重要な文化財を適切に保護するため、村指定文化財「県道開削記念碑」の保存工事、令和3年度に新規指定した村指定文化財「安里のムラガー」「伊舎堂のマーチュウグワー」へのサイン設置、劣化の著しい「伊舎堂のマーチュウグワー」の保存工事に向けた調査設計と測量を実施する。					
効果発現年度	■ 当年度      ■ 後年度(R5年度)					
実施方法	■ 直接実施      ■ 委託      □ 補助      □ 負担      □ その他 ( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a) 当初予算額	5,549	3,685		7,844
	(b) 予算現額	5,549	3,630		7,414	6,050
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 55		▲ 430	▲ 2,752
	(d) 繰越額	0	0		0	0
	A. 計(b+d)	5,549	3,630		7,414	6,050
	B. 執行済額	5,379	3,630		7,414	6,050
	うち交付金充当額	4,302	2,904		5,931	4,840
	次年度繰越額	0			0	0
	執行率(%) (B/A)	96.9%	100.0%		100.0%	100.0%
予算の状況の説明	不用額については委託や工事の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況			
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	「戦後引揚者上陸碑」移設に係る移設工事、設計委託	目標	( - )	( - )	( 実施 )	( )
		実績	-	-	実施	
	ガジマル植替え工事の実施	目標	( 植替えの実施 )	( )	( )	( )
		実績	植替えの実施			
	「伊舎堂のマーチュウグワー」の保存工事に向けた調査設計と測量の実施	目標	( )	( )	( )	( 実施 )
		実績				実施
	文化財整備工事の実施	目標	( )	( )	( )	( 実施 )
		実績				実施
達成状況説明	「県道開削記念碑」の保存工事と「安里のムラガー」「伊舎堂のマーチュウグワー」へのサイン設置工事、「伊舎堂のマーチュウグワー」の保存工事に向けた調査設計と測量を計画どおり実施することができた。					

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
			(年度)				(5年度)
「戦後引揚者上陸碑」移設に係る移設工事、設計委託	目標	( )	( )	(完了)	( )	( )	( )
	実績			完了			
「戦後引揚者上陸碑」を活用した平和教育等の見学者150人(村内小中学校等の平和学習利用者90人+文化財巡りツアー60人)	目標	( )	( )	( )	(150人)	( )	( )
	実績				100人		
「伊舎堂のマーチューグラー」の保存工事に 向けた調査設計と測量の完了	目標	( )	( )	( )	(調査設計と測量の完了)	( )	( )
	実績				調査設計と測量の完了		
文化財整備工事の完了	目標	( )	( )	( )	(文化財整備工事の完了)	( )	( )
	実績				文化財整備工事の完了		
「県道開削記念碑」「安里のムラガー」の見学者	目標	( )	( )	( )	( )	(各100人)	( )
	実績						
進捗状況説明	「県道開削記念碑」の保存工事で「安里のムラガー」「伊舎堂のマーチューグラー」へのサイン設置工事、「伊舎堂のマーチューグラー」の保存工事に向けた調査設計と測量を計画どおり完了することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(伊舎堂のマーチューグラーの保存工事に向けた調査設計と測量の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伊舎堂のマーチューグラーの調査設計によって、保存整備工事に向けた修復箇所の検討課題や工法等について、詳細に把握することができた。</li> <li>測量によってマーチューグラーの保存工事に向けた修復箇所の検討を行う図面や工事に向けた詳細設計の図面を作成することができた。</li> </ul> <p>(文化財整備工事の完了)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「県道開削記念碑」は、石碑風化による文字の磨滅防止の保存工事を行い、風化の抑制を図ることができた。</li> <li>安里のムラガー「伊舎堂のマーチューグラー」は人目につきづらい場所であることやどのような文化財であるか分かりづらかったが、誘導サインや文化財サインを整備することで見学者がアクセスしやすく文化財への理解を深めることができたようになった。</li> <li>県道開削記念碑の高さは2.5mあるため、見学者が碑文を読みづらい状況である。</li> <li>安里のムラガーの周辺は原野や畑地となっていて草に覆われやすい環境に</li> </ul>	<p>(文化財整備工事の完了)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「県道開削記念碑」は、碑文の内容を記した解説サインを設置し、より文化財について理解を深める事ができる取り組みが必要がある。</li> <li>安里のムラガーについては、安里自治会の協力も得ながら、定期的な巡回、適宜清掃を実施する必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>(文化財整備工事の完了)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域学習や文化財巡り等のコースとして設定したり、中城村のホームページやブログ等で情報発信、認知度向上を図り、多くの人に観覧してもらうことで地域の文化・歴史を伝えていく。</li> <li>定期的に草刈り等の清掃や安全確認のための巡回を行う。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	6,050	6,050	4,840	1,210	0
中城村 6,050千円	委託料 2,530千円	(株)文化財サービス 880千円	〔・文化財工事に向けた測量〕		
		(株)建築工房 亥 1,650千円	〔・文化財工事に向けた調査設計〕		
	工事請負費 3,520千円	(株)アディスト 3,520千円	〔・文化財整備工事〕		

資金使途の流点検・評価項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事事業者は指名競争入札で選定しており、妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○入札残による不用額が発生したが、予定していた事業内容はすべて実施されたため、予算規模は適正であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		中城村				
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	6-①	中城村農業振興推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-オ	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業のイノベーション創出及び技術開発の推進 Ⅲ-1-(4)	
事業内容	本村の主要品目の生産振興及び新たな推奨品目の検討に向け栽培試験を行う。また、営農指導員による営農指導を実施することで生産技術の普及を図る。					
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R8年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a) 当初予算額	10,104	8,252	5,808	5,895
	(b) 予算現額	8,058	6,575	5,400	5,945	6,252
	(c) 増減額(b-a)	▲2,046	▲1,677	▲408	50	0
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	8,058	6,575	5,400	5,945	6,252
	B. 執行済額	8,058	6,575	5,400	5,945	6,275
	うち交付金充当額	6,447	5,260	4,320	4,756	5,020
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.4%
予算の状況の説明	当初計画通り適切に事業を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況			
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	重点品目の試験栽培の実施	目標	( )	( )	( )	( 試験栽培実施 )
		実績				試験栽培実施
	新たな推奨品目の検討にむけた栽培試験を実施	目標	( )	( )	( )	( 試験栽培実施 )
		実績				試験栽培実施
	営農指導員の採用	目標	( 2人 )	( 1人 )	( 1人 )	( 1人 )
		実績	2人採用	1人採用	1人採用	1人採用
	作業補助員の採用	目標	( 1人 )	( 1人 )	( 1人 )	( 1人 )
		実績	1人採用	1人採用	1人採用	1人採用
栽培作業軽減化と品質向上を目指す試験栽培の実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 反復試験実施 )	( )	
	実績	2品目試験実施	3品目試験実施	反復試験実施		
前年度試験栽培した栽培方法を農家で実証試験を実施	目標	( )	( 実施 )	( 反復実証試験実施 )	( )	
	実績		生産農家での実証試験実施	反復実証試験実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業の軽減及び品質向上にむけ本村の重点品目の試験栽培を実施した。</li> <li>・新たな推奨品目の検討に向けた栽培試験を実施した。</li> <li>・営農指導員1名及び作業補助員1名を採用し、試験栽培及び営農指導を行うことができた。</li> </ul>					

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
			(年度)				(R8年度)
	主要品目の栽培試験の実施	目標	( )	( )	( )	( 試験栽培 実施 )	( )
		実績	/			試験栽培 実施	/
	新たな推奨品目の栽培試験の実施	目標	( )	( )	( )	( 試験栽培 実施 )	( )
		実績	/			試験栽培 実施	/
	島にんじん間引き作業軽減に向けた播種方法 及び品質向上に向けた栽培試験の実施	目標	( )	( )	( 栽培試験 実施 )	( )	( )
		実績	/		栽培試験 実施		/
	島だいこん栽培方法の違いによる発病の状況 調査試験を実施する。	目標	( )	( )	( 試験実施 )	( )	( )
		実績	/		試験実施		/
	試験栽培の結果を基に、栽培指針の作成	目標	( )	( )	( 栽培指針 作成 )	( )	( )
		実績	/		栽培指針 作成		/
	栽培作業軽減化と品質向上を目指す試験栽培 の完了	目標	( )	( 完了 )	( )	( )	( )
		実績	/	3品目試験完了			/
	前年度試験栽培した栽培方法を農家で実証試験 の完了	目標	( )	( 完了 )	( )	( )	( )
		実績	/	完了			/
	【参考指標】 試験栽培により得られた成果を活用し農業指導 を行った農家の割合	目標	( )	( )	( )	( )	( 80% )
		実績	/				/
	【参考指標】 試験栽培により確立された栽培技術について、 営農指導を受けた村内の農家の割合 80%以上	目標	( )	( )	( )	( 80% )	( )
		実績	/			85%	/
	【参考指標】 本事業の在り方についてアンケートにより検証 適切な指導であったとの回答:80%以上	目標	( )	( )	( )	( 80% )	( )
		実績	/			90%	/
進捗 状況 説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要品目である島ニンジンとバナナ及び特産品である島大根の試験栽培を実施した。</li> <li>・新たな推奨品目の検討にむけ島唐辛子の試験栽培を実施した。</li> <li>【参考指標】</li> <li>・生産農家に対しアンケートを実施</li> <li>生産農家のうち栽培技術の指導を受けた農家が85%で適切な指導であったとの回答を得られた。</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	(栽培試験) ・島ニンジンの栽培試験において、農作業の軽減にむけコーティング種子を使用した栽培試験を行ったが、夏場の高温が発芽に大きな影響を与えることが分かり、コーティング種子を使用した栽培における播種時期の検討が課題となった。また、島大根の黒斑病及び黒点病に対するミネラル分(ホウ素)の影響について一定の効果が確認できなかった。	(栽培試験) ・島ニンジンの試験栽培においては、コーティング種子による播種時期の違いによる影響について調査が必要である。また、島大根の黒斑病及び黒点病に対するミネラル分の影響について効果検証を再度行う必要がある。

**今後の取り組み方針**

(栽培試験)  
 ・島ニンジンの栽培試験において、コーティング種子を使用した播種時期の違いによる影響について調査する。また、島大根の黒斑病及び黒点病に対するミネラル分の影響について手法の変更も含め引き続き調査する。  
 ・引き続き、営農指導員を活用し生産技術及び品質向上に向けた取組みを行っていく。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
6,275	6,275	5,020	1,255	0



資金の用途の流れ、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○予定していた事業内容はすべて実施され、活動目標・成果目標の達成状況を鑑みて予算額の規模は適切であった。 ○不用額は事業費の1%以下であり適正な規模であった。 ○費用・用途は、事業完了時の検査において精査しており妥当であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	とよむ中城産業まつり事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(10)-イ 地域資源を活用した特産品の振興		
担当部署名	産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和4年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(4)		
事業内容	中城村内で生産、製造又は提供される産業製品を村内外にPRし知名度の向上を目的として、「とよむ中城産業まつり」を開催。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H24年度	H27年度	H30年度	R4年度		
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	5,000	5,000	7,000	7,000	
		(b) 予算現額	5,000	5,000	7,000	7,000	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	5,000	5,000	7,000	7,000		
	B. 執行済額	5,000	4,640	4,802	6,161		
	うち交付金充当額	4,000	3,711	3,841	4,929		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	92.8%	68.6%	88.0%		
予算の状況の説明	不用額は実績の減によるものであり、適切に事業を執行できた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			H24年度	H27年度	H30年度	R4年度	
	イベントを実施するための実行委員会への補助金交付	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
		目標	(            )	(            )	(            )		
		実績					
達成状況説明	村内の各種産業をPRすることで産業の振興・地域活性化を図ることを目的に、とよむ中城産業まつり実行委員会へ補助金を交付し、令和5年1月14日(土)、令和5年1月15日(日)の両日に「とよむ中城産業まつり」を開催した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	H27年度	H30年度	R4年度	目標値 (年度)
	とよむ中城産業まつり来場者数	目標	(            )	( 5,000人 )	( 6,500人 )	( 6,000人 )	(            )
		実績		5,894人	7,514人	6,511人	
			目標	(            )	(            )	(            )	(            )
		実績					
進捗状況説明	・目標値を上回り、6,511人の来場者数を記録した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	製品展示即売会の部及びイベント及びステージの部を開催した。ステージの部において、プログラム通りの進行ができなかった。	出演者及び主催者側との連携を密にし、スムーズに進行できるようプログラムの共有を詳細に行い、来場者の満足度の向上に努める。
今後の取り組み方針		
<p>出店者及び来場者からの要望を反映した新たな製品や特産品等の開発を目的に、次回開催に向けて関係機関と協議・連携を図りながら取り組んでいく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,167	6,161	4,929	1,232	5
<pre> graph LR     A[中城村 6,167千円] --&gt; B[委託料 6,167千円]     B --&gt; C[中城村観光協会 6,167千円]     subgraph D [ ]     C     end     D --- E[うち交付対象外経費]     subgraph F [ ]     B     end     F --- G[とよむ中城産業まつり開催に係る経費の補助(委託料等)]           </pre>				

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は産業振興に資する団体を選定しており、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額が発生したものの、計画していた事業内容は実施され、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みても、予算規模は適正だった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、適正に執行することができた。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	